

※追記・修正箇所を赤字にしています。

頁	追記・修正後の内容	現在の内容																						
1	【令和5年度～令和7年度大学院履修要項】 4. 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー） 室蘭工業大学大学院工学研究科は、博士前期課程において、以下に示す能力を身につけた学生に修士の学位を授与する。 1) 専門性と展開力 高度な専門知識と技術を体系的に身に付け、<u>それらと基礎的な研究能力</u>を駆使して自律的に課題の発見・解決方法を提案できる能力を身に付ける。 2) 強靱性と俯瞰力 専門分野を越えた知識と情報・データ処理技術を身に付けるとともに、多様な困難を俯瞰的に捉えて、論理的に対応できる能力を身に付ける。 3) 社会性とコミュニケーション力 豊かな教養を基に複雑化・多様化した社会で他者と協働し、地域や社会の課題解決に主体的に行動できる能力を身に付ける。	4. 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー） 室蘭工業大学大学院工学研究科は、博士前期課程において、以下に示す能力を身につけた学生に修士の学位を授与する。 1) 専門性と展開力 高度な専門知識と技術を体系的に身に付け、<u>それらを</u>駆使して自律的に課題の発見・解決方法を提案できる能力を身に付ける。 2) 強靱性と俯瞰力 専門分野を越えた知識と情報・データ処理技術を身に付けるとともに、多様な困難を俯瞰的に捉えて、論理的に対応できる能力を身に付ける。 3) 社会性とコミュニケーション力 豊かな教養を基に複雑化・多様化した社会で他者と協働し、地域や社会の課題解決に主体的に行動できる能力を身に付ける。																						
2	【令和5年度～令和7年度大学院履修要項】 5. 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー） （1）博士前期課程の教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー） 室蘭工業大学大学院工学研究科は、博士前期課程において、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げた能力を身につけた人材を育成する目的で、以下の方針に基づいてカリキュラムを組み立てている。 1) 教育課程の編成 ①専門性と展開力 専門分野の柱となる科目 <u>及び</u>発展的な科目を配置することにより、世界水準の高度な専門的知識を教授するとともに、ゼミナール・特別研究・<u>研究指導</u>等を通じて、課題発見・解決力を養う。 ②強靱性と俯瞰力 他コース履修科目や全学に共通に開講されている科目等や、専門における情報・データ処理技術を学ぶ科目により、多様な課題に対して、広い視野から解決策を見いだす能力を養う。 ③社会性とコミュニケーション力 全学に共通に開講されている科目等により豊かな教養とコミュニケーション力を教授するとともに、ゼミナール・<u>特別研究</u>等を通じて、協働性及び主体性を養う。 2) 学習成果の評価 ①評価方法 各授業科目の到達度目標の達成度を評価すべく、授業担当教員は、授業科目の特徴を踏まえた多面的評価を行う。 <table><tr><th>教育課程編成方針</th><th>評価方法</th></tr><tr><td>1) 専門性と展開力 専門分野の柱となる科目 <u>及び</u>発展的な科目を配置することにより、世界水準の高度な専門的知識を教授するとともに、ゼミナール・特別研究・<u>研究指導</u>等を通じて、課題発見・解決力を養う。</td><td>①講義科目及び演習科目については、筆答試験、レポート、作品、発表<u>等</u>により評価する。</td></tr><tr><td>2) 強靱性と俯瞰力 他コース履修科目や全学に共通に開講されている科目等や、専門における情報・データ処理技術を学ぶ科目により、多様な課題に対して、広い視野から解決策を見いだす能力を養う。</td><td>②実験科目及び実習科目については、レポート、発表、実技<u>等</u>により評価する。</td></tr><tr><td>3) 社会性とコミュニケーション力 全学に共通に開講されている科目等により豊かな教養とコミュニケーション力を教授するとともに、ゼミナール・<u>特別研究</u>等を通じて、協働性及び主体性を養う。</td><td>③授業科目によっては、多面的評価を実現するため、小テストや中間試験等を評価に活用する</td></tr><tr><td></td><td>④ゼミナール及び特別研究については、活動内容、論文、発表<u>等</u>により評価する。</td></tr><tr><td></td><td><u>⑤学位論文については、あらかじめ明示された審査基準に基づき、提出された学位論文及び公開発表会により評価する。</u></td></tr></table> (略)	教育課程編成方針	評価方法	1) 専門性と展開力 専門分野の柱となる科目 <u>及び</u> 発展的な科目を配置することにより、世界水準の高度な専門的知識を教授するとともに、ゼミナール・特別研究・ <u>研究指導</u> 等を通じて、課題発見・解決力を養う。	①講義科目及び演習科目については、筆答試験、レポート、作品、発表 <u>等</u> により評価する。	2) 強靱性と俯瞰力 他コース履修科目や全学に共通に開講されている科目等や、専門における情報・データ処理技術を学ぶ科目により、多様な課題に対して、広い視野から解決策を見いだす能力を養う。	②実験科目及び実習科目については、レポート、発表、実技 <u>等</u> により評価する。	3) 社会性とコミュニケーション力 全学に共通に開講されている科目等により豊かな教養とコミュニケーション力を教授するとともに、ゼミナール・ <u>特別研究</u> 等を通じて、協働性及び主体性を養う。	③授業科目によっては、多面的評価を実現するため、小テストや中間試験等を評価に活用する		④ゼミナール及び特別研究については、活動内容、論文、発表 <u>等</u> により評価する。		<u>⑤学位論文については、あらかじめ明示された審査基準に基づき、提出された学位論文及び公開発表会により評価する。</u>	5. 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー） （1）博士前期課程の教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー） 室蘭工業大学大学院工学研究科は、博士前期課程において、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げた能力を身につけた人材を育成する目的で、以下の方針に基づいてカリキュラムを組み立てている。 1) 教育課程の編成 ①専門性と展開力 専門分野の柱となる科目 <u>および</u>発展的な科目を配置することにより、世界水準の高度な専門的知識を教授するとともに、ゼミナール・特別研究等を通じて、課題発見・解決力を養う。 ②強靱性と俯瞰力 他コース履修科目や全学に共通に開講されている科目等や、専門における情報・データ処理技術を学ぶ科目により、多様な課題に対して、広い視野から解決策を見いだす能力を養う。 ③社会性とコミュニケーション力 全学に共通に開講されている科目等により豊かな教養とコミュニケーション力を教授するとともに、ゼミナール <u>および特別研究</u>等を通じて、協働性及び主体性を養う。 2) 学習成果の評価 ①評価方法 各授業科目の到達度目標の達成度を評価すべく、授業担当教員は、授業科目の特徴を踏まえた多面的評価を行う。 <table><tr><th>教育課程編成方針</th><th>評価方法</th></tr><tr><td>1) 専門性と展開力 専門分野の柱となる科目 <u>および</u>発展的な科目を配置することにより、世界水準の高度な専門的知識を教授するとともに、ゼミナール・特別研究等を通じて、課題発見・解決力を養う。</td><td>①講義科目及び演習科目については、筆答試験、レポート、作品、発表により評価する。</td></tr><tr><td>2) 強靱性と俯瞰力 他コース履修科目や全学に共通に開講されている科目等や、専門における情報・データ処理技術を学ぶ科目により、多様な課題に対して、広い視野から解決策を見いだす能力を養う。</td><td>②実験科目及び実習科目については、レポート、発表、実技により評価する。</td></tr><tr><td>3) 社会性とコミュニケーション力 全学に共通に開講されている科目等により豊かな教養とコミュニケーション力を教授するとともに、ゼミナール <u>および特別研究</u>等を通じて、協働性及び主体性を養う。</td><td>③授業科目によっては、多面的評価を実現するため、小テストや中間試験等を評価に活用する</td></tr><tr><td></td><td>④ゼミナール及び特別研究については、活動内容、論文、発表により評価する。</td></tr></table> (略)	教育課程編成方針	評価方法	1) 専門性と展開力 専門分野の柱となる科目 <u>および</u> 発展的な科目を配置することにより、世界水準の高度な専門的知識を教授するとともに、ゼミナール・特別研究等を通じて、課題発見・解決力を養う。	①講義科目及び演習科目については、筆答試験、レポート、作品、発表により評価する。	2) 強靱性と俯瞰力 他コース履修科目や全学に共通に開講されている科目等や、専門における情報・データ処理技術を学ぶ科目により、多様な課題に対して、広い視野から解決策を見いだす能力を養う。	②実験科目及び実習科目については、レポート、発表、実技により評価する。	3) 社会性とコミュニケーション力 全学に共通に開講されている科目等により豊かな教養とコミュニケーション力を教授するとともに、ゼミナール <u>および特別研究</u> 等を通じて、協働性及び主体性を養う。	③授業科目によっては、多面的評価を実現するため、小テストや中間試験等を評価に活用する		④ゼミナール及び特別研究については、活動内容、論文、発表により評価する。
教育課程編成方針	評価方法																							
1) 専門性と展開力 専門分野の柱となる科目 <u>及び</u> 発展的な科目を配置することにより、世界水準の高度な専門的知識を教授するとともに、ゼミナール・特別研究・ <u>研究指導</u> 等を通じて、課題発見・解決力を養う。	①講義科目及び演習科目については、筆答試験、レポート、作品、発表 <u>等</u> により評価する。																							
2) 強靱性と俯瞰力 他コース履修科目や全学に共通に開講されている科目等や、専門における情報・データ処理技術を学ぶ科目により、多様な課題に対して、広い視野から解決策を見いだす能力を養う。	②実験科目及び実習科目については、レポート、発表、実技 <u>等</u> により評価する。																							
3) 社会性とコミュニケーション力 全学に共通に開講されている科目等により豊かな教養とコミュニケーション力を教授するとともに、ゼミナール・ <u>特別研究</u> 等を通じて、協働性及び主体性を養う。	③授業科目によっては、多面的評価を実現するため、小テストや中間試験等を評価に活用する																							
	④ゼミナール及び特別研究については、活動内容、論文、発表 <u>等</u> により評価する。																							
	<u>⑤学位論文については、あらかじめ明示された審査基準に基づき、提出された学位論文及び公開発表会により評価する。</u>																							
教育課程編成方針	評価方法																							
1) 専門性と展開力 専門分野の柱となる科目 <u>および</u> 発展的な科目を配置することにより、世界水準の高度な専門的知識を教授するとともに、ゼミナール・特別研究等を通じて、課題発見・解決力を養う。	①講義科目及び演習科目については、筆答試験、レポート、作品、発表により評価する。																							
2) 強靱性と俯瞰力 他コース履修科目や全学に共通に開講されている科目等や、専門における情報・データ処理技術を学ぶ科目により、多様な課題に対して、広い視野から解決策を見いだす能力を養う。	②実験科目及び実習科目については、レポート、発表、実技により評価する。																							
3) 社会性とコミュニケーション力 全学に共通に開講されている科目等により豊かな教養とコミュニケーション力を教授するとともに、ゼミナール <u>および特別研究</u> 等を通じて、協働性及び主体性を養う。	③授業科目によっては、多面的評価を実現するため、小テストや中間試験等を評価に活用する																							
	④ゼミナール及び特別研究については、活動内容、論文、発表により評価する。																							

頁	追記・修正後の内容	現在の内容												
6・7	【令和5年度～令和7年度大学院履修要項】 11. 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー） （１）博士後期課程の教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー） 室蘭工業大学大学院工学研究科は、博士後期課程において、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げた能力を身につけた人材を育成する目的で、以下の方針に基づいてカリキュラムを組み立てている。 1）教育課程の編成 ①専門性と展開力 実践的PBL科目・<u>特別研究及び研究指導</u>により、イノベーションを創出する能力を養うとともに、社会の多様なニーズに対応し、複雑な課題を自律的に発見・解決できる能力を身に付ける。 ②強靱性と俯瞰力 ゼミナール<u>及び</u>特別研究により、広汎で高度な専門知識と情報・データ処理技術を駆使して多様な困難を俯瞰的に捉えて論理的に対応できる能力を身につける。 ③社会性とコミュニケーション力 英語プレゼンテーションの実践により、社会のグローバル化に対応可能な国際的コミュニケーション能力を養い、ゼミナール<u>及び</u>特別研究において、高い倫理観と豊かな教養のもとで多様な困難を協働して解決する能力を身に付ける。 2）学習成果の評価 ①評価方法 各授業科目の到達度目標の達成度を評価すべく、授業担当教員は、授業科目の特徴を踏まえた多面的評価を行う。 <table><tr><th>教育課程編成方針</th><th>評価方法</th></tr><tr><td>1）専門性と展開力 実践的PBL科目・<u>特別研究及び研究指導</u>により、イノベーションを創出する能力を養うとともに、社会の多様なニーズに対応し、複雑な課題を自律的に発見・解決できる能力を身に付ける。</td><td rowspan="3">①講義科目及び演習科目については、筆答試験、レポート<u>等</u>により評価する。 ②ゼミナール及び特別研究については、活動内容、論文、発表<u>等</u>により評価する。 <u>③学位論文については、あらかじめ明示された審査基準に基づき、提出された学位論文及び公開発表会により評価する。</u></td></tr><tr><td>2）強靱性と俯瞰力 ゼミナール<u>及び</u>特別研究により、広汎で高度な専門知識と情報・データ処理技術を駆使して多様な困難を俯瞰的に捉えて論理的に対応できる能力を身につける。</td></tr><tr><td>3）社会性とコミュニケーション力 英語プレゼンテーションの実践により、社会のグローバル化に対応可能な国際的コミュニケーション能力を養い、ゼミナール<u>及び</u>特別研究において、高い倫理観と豊かな教養のもとで多様な困難を協働して解決する能力を身に付ける。</td></tr></table> (略)	教育課程編成方針	評価方法	1）専門性と展開力 実践的PBL科目・ <u>特別研究及び研究指導</u> により、イノベーションを創出する能力を養うとともに、社会の多様なニーズに対応し、複雑な課題を自律的に発見・解決できる能力を身に付ける。	①講義科目及び演習科目については、筆答試験、レポート <u>等</u> により評価する。 ②ゼミナール及び特別研究については、活動内容、論文、発表 <u>等</u> により評価する。 <u>③学位論文については、あらかじめ明示された審査基準に基づき、提出された学位論文及び公開発表会により評価する。</u>	2）強靱性と俯瞰力 ゼミナール <u>及び</u> 特別研究により、広汎で高度な専門知識と情報・データ処理技術を駆使して多様な困難を俯瞰的に捉えて論理的に対応できる能力を身につける。	3）社会性とコミュニケーション力 英語プレゼンテーションの実践により、社会のグローバル化に対応可能な国際的コミュニケーション能力を養い、ゼミナール <u>及び</u> 特別研究において、高い倫理観と豊かな教養のもとで多様な困難を協働して解決する能力を身に付ける。	11. 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー） （１）博士後期課程の教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー） 室蘭工業大学大学院工学研究科は、博士後期課程において、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げた能力を身につけた人材を育成する目的で、以下の方針に基づいてカリキュラムを組み立てている。 1）教育課程の編成 ①専門性と展開力 実践的PBL科目<u>および</u>特別研究により、イノベーションを創出する能力を養うとともに、社会の多様なニーズに対応し、複雑な課題を自律的に発見・解決できる能力を身に付ける。 ②強靱性と俯瞰力 ゼミナール<u>および</u>特別研究により、広汎で高度な専門知識と情報・データ処理技術を駆使して多様な困難を俯瞰的に捉えて論理的に対応できる能力を身につける。 ③社会性とコミュニケーション力 英語プレゼンテーションの実践により、社会のグローバル化に対応可能な国際的コミュニケーション能力を養い、ゼミナール<u>および</u>特別研究において、高い倫理観と豊かな教養のもとで多様な困難を協働して解決する能力を身に付ける。 2）学習成果の評価 ①評価方法 各授業科目の到達度目標の達成度を評価すべく、授業担当教員は、授業科目の特徴を踏まえた多面的評価を行う。 <table><tr><th>教育課程編成方針</th><th>評価方法</th></tr><tr><td>1）専門性と展開力 実践的PBL科目<u>および</u>特別研究により、イノベーションを創出する能力を養うとともに、社会の多様なニーズに対応し、複雑な課題を自律的に発見・解決できる能力を身に付ける。</td><td rowspan="3">①講義科目及び演習科目については、筆答試験、レポートにより評価する。 ②ゼミナール及び特別研究については、活動内容、論文、発表により評価する。</td></tr><tr><td>2）強靱性と俯瞰力 ゼミナール<u>および</u>特別研究により、広汎で高度な専門知識と情報・データ処理技術を駆使して多様な困難を俯瞰的に捉えて論理的に対応できる能力を身につける。</td></tr><tr><td>3）社会性とコミュニケーション力 英語プレゼンテーションの実践により、社会のグローバル化に対応可能な国際的コミュニケーション能力を養い、ゼミナール<u>および</u>特別研究において、高い倫理観と豊かな教養のもとで多様な困難を協働して解決する能力を身に付ける。</td></tr></table> (略)	教育課程編成方針	評価方法	1）専門性と展開力 実践的PBL科目 <u>および</u> 特別研究により、イノベーションを創出する能力を養うとともに、社会の多様なニーズに対応し、複雑な課題を自律的に発見・解決できる能力を身に付ける。	①講義科目及び演習科目については、筆答試験、レポートにより評価する。 ②ゼミナール及び特別研究については、活動内容、論文、発表により評価する。	2）強靱性と俯瞰力 ゼミナール <u>および</u> 特別研究により、広汎で高度な専門知識と情報・データ処理技術を駆使して多様な困難を俯瞰的に捉えて論理的に対応できる能力を身につける。	3）社会性とコミュニケーション力 英語プレゼンテーションの実践により、社会のグローバル化に対応可能な国際的コミュニケーション能力を養い、ゼミナール <u>および</u> 特別研究において、高い倫理観と豊かな教養のもとで多様な困難を協働して解決する能力を身に付ける。
教育課程編成方針	評価方法													
1）専門性と展開力 実践的PBL科目・ <u>特別研究及び研究指導</u> により、イノベーションを創出する能力を養うとともに、社会の多様なニーズに対応し、複雑な課題を自律的に発見・解決できる能力を身に付ける。	①講義科目及び演習科目については、筆答試験、レポート <u>等</u> により評価する。 ②ゼミナール及び特別研究については、活動内容、論文、発表 <u>等</u> により評価する。 <u>③学位論文については、あらかじめ明示された審査基準に基づき、提出された学位論文及び公開発表会により評価する。</u>													
2）強靱性と俯瞰力 ゼミナール <u>及び</u> 特別研究により、広汎で高度な専門知識と情報・データ処理技術を駆使して多様な困難を俯瞰的に捉えて論理的に対応できる能力を身につける。														
3）社会性とコミュニケーション力 英語プレゼンテーションの実践により、社会のグローバル化に対応可能な国際的コミュニケーション能力を養い、ゼミナール <u>及び</u> 特別研究において、高い倫理観と豊かな教養のもとで多様な困難を協働して解決する能力を身に付ける。														
教育課程編成方針	評価方法													
1）専門性と展開力 実践的PBL科目 <u>および</u> 特別研究により、イノベーションを創出する能力を養うとともに、社会の多様なニーズに対応し、複雑な課題を自律的に発見・解決できる能力を身に付ける。	①講義科目及び演習科目については、筆答試験、レポートにより評価する。 ②ゼミナール及び特別研究については、活動内容、論文、発表により評価する。													
2）強靱性と俯瞰力 ゼミナール <u>および</u> 特別研究により、広汎で高度な専門知識と情報・データ処理技術を駆使して多様な困難を俯瞰的に捉えて論理的に対応できる能力を身につける。														
3）社会性とコミュニケーション力 英語プレゼンテーションの実践により、社会のグローバル化に対応可能な国際的コミュニケーション能力を養い、ゼミナール <u>および</u> 特別研究において、高い倫理観と豊かな教養のもとで多様な困難を協働して解決する能力を身に付ける。														
年度により異なる	【令和2年度～令和7年度大学院履修要項】 2 規則 (略) ○室蘭工業大学大学院学則 (略) (博士前期課程の修了) 第25条 博士前期課程の修了の要件は、当該課程に2年以上在学し、研究科規則で定める授業科目について32単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、優れた業績を上げた者については、当該課程に1年以上在学すれば足りるものとする。 2 前項の場合において、研究科の目的に応じて適当と認めるときは、特定の課題についての研究の成果の審査をもって修士論文の審査に代えることができる。 <u>3 博士前期課程の修了の認定は、第36条第2項に定める博士前期課程分科会の議を経て、学長が行う。</u> (博士後期課程の修了) 第26条 博士後期課程の修了の要件は、当該課程に3年以上在学し、研究科規則で定める授業科目について、12単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げたと認められる者については、当該課程に1年（2年未満の在学期間をもって修士課程を修了した者）にあっては、当該在学期間を含めて3年）以上在学すれば足りるものとする。 2 前項の規定にかかわらず、学校教育法施行規則（昭和22年文部省令第11号）第156条の規定により、博士後期課程への入学資格に関し、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者が、当該課程に入学した場合の当該課程の修了の要件は、当該課程に3年以上在学し、研究科規則で定める授業科目について、12単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げたと認められる者については、当該課程に1年以上在学すれば足りるものとする。 <u>3 博士後期課程の修了の認定は、第36条第2項に定める博士後期課程分科会の議を経て、学長が行う。</u> (略)	2 規則 (略) ○室蘭工業大学大学院学則 (略) (博士前期課程の修了) 第25条 博士前期課程の修了の要件は、当該課程に2年以上在学し、研究科規則で定める授業科目について32単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、優れた業績を上げた者については、当該課程に1年以上在学すれば足りるものとする。 2 前項の場合において、研究科の目的に応じて適当と認めるときは、特定の課題についての研究の成果の審査をもって修士論文の審査に代えることができる。 (博士後期課程の修了) 第26条 博士後期課程の修了の要件は、当該課程に3年以上在学し、研究科規則で定める授業科目について、12単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げたと認められる者については、当該課程に1年（2年未満の在学期間をもって修士課程を修了した者）にあっては、当該在学期間を含めて3年）以上在学すれば足りるものとする。 2 前項の規定にかかわらず、学校教育法施行規則（昭和22年文部省令第11号）第156条の規定により、博士後期課程への入学資格に関し、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者が、当該課程に入学した場合の当該課程の修了の要件は、当該課程に3年以上在学し、研究科規則で定める授業科目について、12単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げたと認められる者については、当該課程に1年以上在学すれば足りるものとする。 (略)												

頁	追記・修正後の内容	現在の内容
年度により異なる	【令和2年度～令和7年度大学院履修要項】 <u>○学位論文審査の取扱い及び審査基準に関する申合せ</u> <u>1 博士論文に係る発表論文について</u> <u>（1）学位論文提出に当たっては、博士論文の内容に関連した研究成果について、学会等の審査付きの論文集に、課程博士にあっては1編以上、論文博士にあっては3編以上掲載されていること。</u> <u>（2）発表論文が共著の場合であっても、学位論文提出者が主として研究発表したものについては、これを認める。</u> <u>（3）論文集に投稿し、掲載が決定された論文については、発表論文として取り扱うことができる。</u> <u>2 博士論文審査の申請について</u> <u>（1）専攻長は、学位審査取扱細則（平成16年度室工大細則第9号）第12条第2項及び第22条第2項に規定する事前審査に先立ち、予備審査を行い、その結果を学長に報告する。</u> <u>（2）予備審査結果の報告は、論文目録及び履歴書（学位審査取扱細則（平成16年度室工大細則第9号）様式6及び様式7）を提出する。ただし、在学期間を短縮して修了を予定する課程博士及び論文博士申請者においては、研究業績書及び研究歴証明書を併せて提出する。</u> <u>3 審査について</u> <u>学位論文の審査は、提出された学位論文及び公開発表会により以下の審査基準に基づき、室蘭工業大学学位規則（平成16年室工大規則第94号）第7条の規定により選出された審査委員が総合的に評価を行い、可否を判定する。</u> <u>（1）修士論文の審査基準</u> <u>・研究のテーマが、工学及び関連分野に寄与するものであること。</u> <u>・研究の背景や位置づけが、明確に示されていること。</u> <u>・研究の目的が、論文提出者によって十分に理解されていること。</u> <u>・研究の内容が、研究分野に関連する幅広い専門知識に基づいていること。</u> <u>・研究の成果の説明が、論理的であり、成果に基づく結論や導かれた仮説の展開が適切であること。</u> <u>・研究の方法や成果は、新規性、創造性、有用性のいずれかを有し、かつ信頼性が高いこと。</u> <u>・研究の遂行において、データ改竄、捏造、剽窃などの研究不正を行っていないこと。</u> <u>・上記の他、各コースが定める要件がある場合はこれを満たすこと。</u> <u>（2）博士論文の審査基準</u> <u>・研究のテーマが、工学及び関連分野に大きく寄与するものであること。</u> <u>・研究の背景や位置づけが、明確かつ詳細に示されていること。</u> <u>・研究の目的が、論文提出者によって深く理解されていること。</u> <u>・研究の内容が、研究分野に関連する高度で幅広い専門知識に基づいていること。</u> <u>・研究の成果の説明が、論理的であり、成果に基づく結論や導かれた仮説の展開が適切で説得力があること。</u> <u>・研究の方法や成果は、新規性、創造性及び有用性が顕著であり、かつ信頼性が高いこと。</u> <u>・研究の遂行において、データ改竄、捏造、剽窃などの研究不正を行っていないこと。</u> <u>・上記の他、専攻が定める要件がある場合はこれを満たすこと。</u> （略）	<u>（新規追加）</u>
年度により異なる	【令和2年度～令和7年度大学院履修要項】 「室蘭工業大学大学院における学習成果の評価の方針」及び「室蘭工業大学大学院における研究指導の基本方針」について、修正。（別添、参照）	

【追記・修正後】 ※追記・修正後の箇所を赤字にしています。

室蘭工業大学大学院における学習成果の評価の方針

令和元年10月10日 教育システム委員会決定

令和元年10月17日 博士後期課程専攻長等会議決定

最終改正：令和 7年 5月29日 教育システム委員会

最終改正：令和 7年 6月 3日 博士後期課程専攻長等会議

室蘭工業大学大学院における教育課程の学習成果については、学位授与の方針に定める以下の資質や能力を最終的に達成するように構成された、各授業科目の到達度目標の達成度を評価すべく、授業担当教員は、授業科目の特徴を踏まえた多面的評価を行う。

【博士前期課程】

1) 専門性と展開力

高度な専門知識と技術を体系的に身に付け、それらと基礎的な研究能力を駆使して自律的に課題の発見・解決方法を提案できる能力を身に付ける。

2) 強靱性と俯瞰力

専門分野を越えた知識と情報・データ処理技術を身に付けるとともに、多様な困難を俯瞰的に捉えて、論理的に対応できる能力を身に付ける。

3) 社会性とコミュニケーション力

豊かな教養を基に複雑化・多様化した社会で他者と協働し、地域や社会の課題解決に主体的に行動できる能力を身に付ける。

【博士後期課程】

1) 専門性と展開力

深化・高度化した世界水準の専門知識と、実践的な研究能力を駆使して、社会の多様なニーズに対応し、複雑な課題を解決できる能力を身に付ける。

2) 強靱性と俯瞰力

広汎で高度な専門知識と情報・データ処理技術を駆使して、多様な困難を俯瞰的に捉え、解決できる能力を身に付ける。

3) 社会性とコミュニケーション力

国際的コミュニケーション能力を身に付けるとともに高い倫理観と豊かな教養を持ち、多様な困難を協働して解決する能力を身に付ける。

1. 教育・評価方法

【博士前期課程】

区 分	教 育 方 法	評 価 方 法
1) 専門性と展開力 高度な専門知識と技術を体系的に身に付け、 <u>それらと基礎的な研究能力</u> を駆使して自律的に課題の発見・解決方法を提案できる能力を身に付ける。	専門分野の柱となる科目 <u>及び</u> 発展的な科目を配置することにより、世界水準の高度な専門的知識を教授するとともに、ゼミナール・特別研究・ <u>研究指導</u> 等を通じて、課題発見・解決力を養う。	①講義科目及び演習科目については、筆答試験、レポート、作品、発表 <u>等</u> により評価する。 ②実験科目及び実習科目については、レポート、発表、 <u>実技等</u> により評価する。
2) 強靱性と俯瞰力 専門分野を越えた知識と情報・データ処理技術を身に付けるとともに、多様な困難を俯瞰的に捉えて、論理的に対応できる能力を身に付ける。	他コース履修科目や全学に共通に開講されている科目等や、専門における情報・データ処理技術を学ぶ科目により、多様な課題に対して、広い視野から解決策を見いだす能力を養う。	③授業科目によっては、多面的評価を実現するため、小テストや中間試験等を評価に活用する。 ④ゼミナール及び特別研究については、活動、演習、実験内容 <u>等</u> により評価する。
3) 社会性とコミュニケーション力 豊かな教養を基に複雑化・多様化した社会で他者と協働し、地域や社会の課題解決に主体的に行動できる能力を身に付ける。	全学に共通に開講されている科目等により豊かな教養とコミュニケーション力を教授するとともに、ゼミナール・ <u>特別研究</u> 等を通じて、協働性及び主体性を養う。	<u>⑤学位論文については、あらかじめ明示された審査基準に基づき、提出された学位論文及び公開発表会により評価する。</u>

【博士後期課程】

区 分	教 育 方 法	評 価 方 法
1) 専門性と展開力 深化・高度化した世界水準の専門知識と、実践的な研究能力を駆使して、社会の多様なニーズに対応し、複雑な課題を解決できる能力を身に付ける。	実践的PBL科目・ <u>特別研究及び研究指導</u> により、イノベーションを創出する能力を養うとともに、社会の多様なニーズに対応し、複雑な課題を自律的に発見・解決できる能力を身に付ける。	①講義科目及び演習科目については、筆答試験、レポート <u>等</u> により評価する。 ②ゼミナール及び特別研究については、活動、演習、実験内容 <u>等</u> により評価する。 <u>③学位論文については、あらかじめ明示された審査基準に基づき、提出された学位論文及び公開発表会により評価する。</u>
2) 強靱性と俯瞰力 広汎で高度な専門知識と情報・データ処理技術を駆使して、多様な困難を俯瞰的に捉え、解決できる能力を身に付ける。	ゼミナール <u>及び</u> 特別研究により、広汎で高度な専門知識と情報・データ処理技術を駆使して多様な困難を俯瞰的に捉えて論理的に対応できる能力を身につける。	
3) 社会性とコミュニケーション力 国際的コミュニケーション能力を身に付けるとともに高い倫理観と豊かな教養を持ち、多様な困難を協働して解決する能力を身に付ける。	英語プレゼンテーションの実践により、社会のグローバル化に対応可能な国際的コミュニケーション能力を養い、ゼミナール <u>及び</u> 特別研究において、高い倫理観と豊かな教養のもとで多様な困難を協働して解決する能力を身に付ける。	

2. 成績評価方法の明示

授業科目の成績評価方法については、シラバスに明示する。

3. 成績評価基準

得 点 (100点法により採点)	評語	評 価		G P (評点)
		達成度レベル	合否判定	
80点～100点	A	到達度目標を十分に達成し優秀である	合格	4
70点～79点	B	到達度目標を概ね達成している		3
60点～69点	C	到達度目標を最低限達成している		2
59点以下	D	到達度目標を達成していない	不合格	0

※得点の区分は博士前期課程のみ

4. G P A (科目成績平均値)

合格における3段階の評価のほか、成績を上記のとおり点数化(GP)し、学生自身による学習成果の達成状況の確認、大学院による順位付けの参考データとして活用する。

5. 成績情報の開示

学生に対して、学務システムを利用し、授業科目ごとの評語とGP、学期ごとのGPA、累積GPAを開示し、学生自身による確認を可能とする。

6. 評価の点検

成績評価の結果は、評価分布等を使用して、教育システム委員会において定期的に点検を行い、必要に応じて教育方法等の改善を行う。

7. 適用

上記3におけるGP及び4におけるGPA(科目成績平均値)は、令和元年度入学者から適用する。

3. その他

室蘭工業大学大学院における学習成果の評価の方針

室蘭工業大学大学院における教育課程の学習成果については、学位授与の方針に定める以下の資質や能力を最終的に達成するように構成された、各授業科目の到達度目標の達成度を評価すべく、授業担当教員は、授業科目の特徴を踏まえた多面的評価を行う。

【博士前期課程】

1) 専門性と展開力

高度な専門知識と技術を体系的に身に付け、それらを駆使して自律的に課題の発見・解決方法を提案できる能力を身に付ける。

2) 強靱性と俯瞰力

専門分野を越えた知識と情報・データ処理技術を身に付けるとともに、多様な困難を俯瞰的に捉えて、論理的に対応できる能力を身に付ける。

3) 社会性とコミュニケーション力

豊かな教養を基に複雑化・多様化した社会で他者と協働し、地域や社会の課題解決に主体的に行動できる能力を身に付ける。

【博士後期課程】

1) 専門性と展開力

深化・高度化した世界水準の専門知識と、実践的な研究能力を駆使して、社会の多様なニーズに対応し、複雑な課題を解決できる能力を身に付ける。

2) 強靱性と俯瞰力

広汎で高度な専門知識と情報・データ処理技術を駆使して、多様な困難を俯瞰的に捉え、解決できる能力を身に付ける。

3) 社会性とコミュニケーション力

国際的コミュニケーション能力を身に付けるとともに高い倫理観と豊かな教養を持ち、多様な困難を協働して解決する能力を身に付ける。

1. 教育・評価方法

【博士前期課程】

区 分	教 育 方 法	評 価 方 法
1) 専門性と展開力 高度な専門知識と技術を体系的に身に付け、それらを駆使して自律的に課題の発見・解決方法を提案できる能力を身に付ける。	専門分野の柱となる科目および発展的な科目を配置することにより、世界水準の高度な専門的知識を教授するとともに、ゼミナール・特別研究等を通じて、課題発見・解決力を養う。	①講義科目及び演習科目については、筆答試験、レポート、作品、発表により評価する。
2) 強靱性と俯瞰力 専門分野を越えた知識と情報・データ処理技術を身に付けるとともに、多様な困難を俯瞰的に捉えて、論理的に対応できる能力を身に付ける。	他コース履修科目や全学に共通に開講されている科目等や、専門における情報・データ処理技術を学ぶ科目により、多様な課題に対して、広い視野から解決策を見いだす能力を養う。	②実験科目及び実習科目については、レポート、発表、実技により評価する。 ③授業科目によっては、多面的評価を実現するため、小テストや中間試験等を評価に活用する。
3) 社会性とコミュニケーション力 豊かな教養を基に複雑化・多様化した社会で他者と協働し、地域や社会の課題解決に主体的に行動できる能力を身に付ける。	全学に共通に開講されている科目等により豊かな教養とコミュニケーション力を教授するとともに、ゼミナールおよび特別研究等を通じて、協働性及び主体性を養う。	④ゼミナール及び特別研究については、活動内容、論文、発表により評価する。

【博士後期課程】

区 分	教 育 方 法	評 価 方 法
1) 専門性と展開力 深化・高度化した世界水準の専門知識と、実践的な研究能力を駆使して、社会の多様なニーズに対応し、複雑な課題を解決できる能力を身に付ける。	実践的PBL科目および特別研究により、イノベーションを創出する能力を養うとともに、社会の多様なニーズに対応し、複雑な課題を自律的に発見・解決できる能力を身に付ける。	①講義科目及び演習科目については、筆答試験、レポートにより評価する。 ②ゼミナール及び特別研究については、活動内容、論文、発表により評価する。
2) 強靱性と俯瞰力 広汎で高度な専門知識と情報・データ処理技術を駆使して、多様な困難を俯瞰的に捉え、解決できる能力を身に付ける。	ゼミナールおよび特別研究により、広汎で高度な専門知識と情報・データ処理技術を駆使して多様な困難を俯瞰的に捉えて論理的に対応できる能力を身につける。	
3) 社会性とコミュニケーション力 国際的コミュニケーション能力を身に付けるとともに高い倫理観と豊かな教養を持ち、多様な困難を協働して解決する能力を身に付ける。	英語プレゼンテーションの実践により、社会のグローバル化に対応可能な国際的コミュニケーション能力を養い、ゼミナールおよび特別研究において、高い倫理観と豊かな教養のもとで多様な困難を協働して解決する能力を身に付ける。	

2. 成績評価方法の明示

授業科目の成績評価方法については、シラバスに明示する。

3. 成績評価基準

得 点 (100点法により採点)	評語	評 価		G P (評点)
		達成度レベル	合否判定	
80点～100点	A	到達度目標を十分に達成し優秀である	合格	4
70点～79点	B	到達度目標を概ね達成している		3
60点～69点	C	到達度目標を最低限達成している		2
59点以下	D	到達度目標を達成していない	不合格	0

※得点の区分は博士前期課程のみ

4. GPA（科目成績平均値）

合格における3段階の評価のほか、成績を上記のとおり点数化（GP）し、学生自身による学習成果の達成状況の確認、大学院による順位付けの参考データとして活用する。

5. 成績情報の開示

学生に対して、学務システムを利用し、授業科目ごとの評語とGP、学期ごとのGPA、累積GPAを開示し、学生自身による確認を可能とする。

6. 評価の点検

成績評価の結果は、評価分布等を使用して、教育システム委員会において定期的に点検を行い、必要に応じて教育方法等の改善を行う。

7. 適用

上記3におけるGP及び4におけるGPA（科目成績平均値）は、令和元年度入学者から適用する。

室蘭工業大学大学院における研究指導の基本方針

令和元年 11 月 28 日 役 員 会 決 定
最終改正：令和 7 年 11 月 06 日 教育システム委員会
最終改正：令和 7 年 11 月 13 日 博士後期課程専攻長等会議

博士前期課程及び博士後期課程で定める教育目的を達成するため、以下に掲げる研究指導体制を整備し、各種の取り組みを行う。

1. 研究指導体制

(1) 複数教員による指導体制

複数教員（博士前期課程 2 名以上、博士後期課程 3 名以上）による指導体制とし、教育システム委員会及び博士後期課程専攻長等会議により、指導教員を決定する。

(2) 研究テーマ決定

指導教員が学生と面談を行い、取り組むべき特別研究のテーマ決定を行う。

(3) 研究指導計画の明示

研究指導計画を原則各年度当初（10 月入学の場合は 10 月）までに別紙「室蘭工業大学大学院工学研究科 研究指導概要」により学生に提示する。

指導教員は、「室蘭工業大学大学院工学研究科 研究指導概要」を基に各年度当初に学生に対して研究指導計画を明示した上で学生と面談を行い、当該 1 年間の研究予定等について指導を行う。

2. 進捗状況のチェック

(1) 博士前期課程における中間発表会の実施

博士前期課程においては、修士論文の発表のみならず、中間発表会も実施・公開し、その後各専攻コース教員による会議により議論を行うなど、研究の進捗状況を把握し、必要に応じて研究指導計画の見直しを行う。

(2) 博士後期課程における研究指導報告制度の実施

学生が標準修業年限により学位を取得することができるよう研究の進捗状況を把握し、必要に応じて研究指導計画の見直しを行い、研究指導方針の明確化を図る。報告があった内容は、博士後期課程専攻長等会議に付議し、研究の進捗状況を確認する。

3. 学位論文審査基準等の明示

学位論文に係る評価並びに修了の認定に当たっては、客観性及び厳格性を確保するため、学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに、当該基準にしたがって適切に行う。

4. 研究力・俯瞰力の育成

(1) 研究奨励費制度

学部生及び大学院学生について、学会の全国大会又は国際大会において発表を行った場合等については、別に定める研究奨励費制度により、研究奨励費を指導教員に配分する。

(2) 他大学等との連携教育による俯瞰力育成

他大学大学院と連携を行うことにより相互に大学院科目を提供し、遠隔授業システムを利用して双方の大学院学生の受講を可能とする。

また、スーパー連携大学コンソーシアムに加入し、コンソーシアム参加大学が提供する、多様な授業科目の受講を可能とする。

5. 研究者倫理教育と教育能力育成

(1) 研究者倫理教育

博士前期課程と博士後期課程の 1 年生を対象に、E ラーニングを活用した「研究倫理教育研修」を実施する。

(2) TA 研修会の実施

博士前期課程学生を対象に、「TA 研修会」を開催し、TA 業務の知識、教育者としての振る舞いや心構えを教授する。

室蘭工業大学大学院工学研究科 研究指導概要

【博士前期課程】

年	月	内容	
<u>1 年次</u>	<u>4 月</u> * (10 月)	<u>指導教員の決定</u>	<u>・ 教育システム委員会により指導教員、副指導教員を決定する。</u>
		<u>研究テーマ決定、研究計画及び研究指導計画の作成</u>	<u>・ 学生は研究計画を作成する。</u> <u>・ 指導教員と学生が相談の上、研究テーマを決定し、研究指導計画書を作成する。</u>
		<u>研究倫理教育研修の実施</u>	<u>・ 学生は研究倫理教育研修を受講し、指導教員が確認を行う。</u>
	<u>4 月～</u> * (10 月～)	<u>授業の履修</u>	<u>・ 学生は授業科目を履修し、専門・総合的知識を獲得する。</u>
		<u>研究及び研究指導の実施</u>	<u>・ 学生は研究計画に基づき、研究を実施する。</u> <u>・ 指導教員は学生が実施している研究の進行を随時確認し、実験・調査等の手法やデータ解析の指導等、研究の進捗状況に応じた指導を実施する。</u>
		<u>研究指導の頻度・方法</u>	<u>・ 指導教員は研究室ゼミ（週 1 回）、研究班別ミーティング（週 1 回）又は個別ディスカッション（月 1 回）を実施する。</u>
<u>2 年次</u>	<u>4 月</u> * (10 月)	<u>進捗状況の確認</u>	<u>・ 指導教員は学生が実施している研究の進捗状況を確認する。</u>
		<u>研究計画及び研究指導計画の作成</u>	<u>・ 学生は研究計画を作成する。</u> <u>・ 指導教員は研究指導計画書を作成する。</u>
		<u>研究倫理教育研修の実施</u>	<u>・ 未実施の学生は研究倫理教育研修を受講し、指導教員が確認を行う。</u>
	<u>4 月～</u> * (10 月～)	<u>授業の履修</u>	<u>・ 学生は授業科目を履修し、専門・総合的知識を獲得する。</u>
		<u>研究及び研究指導の実施</u>	<u>・ 学生は研究計画に基づき、研究を実施する。</u> <u>・ 学生の中間発表又は学会等での発表を通じて、指導教員は研究指導を実施する。</u> <u>・ 指導教員は学生が実施している研究の進捗状況及び取得単位の状況を踏まえて修士論文の指導を実施する。</u>
		<u>研究指導の頻度・方法</u>	<u>・ 指導教員は研究室ゼミ（週 1 回）、研究班別ミーティング（週 1 回）又は個別ディスカッション（月 1 回）を実施する。</u>
	<u>1 月～2 月</u> * (7 月～8 月)	<u>学位審査</u>	<u>・ 学生は修士論文を提出し、修士論文発表会に参加する。</u> <u>・ 論文審査委員は修士論文審査及び最終試験を実施する。</u>
	<u>3 月</u> * (9 月)	<u>学位授与</u>	

*は 10 月入学者

室蘭工業大学大学院工学研究科 研究指導概要（案）

【博士後期課程】

年	月	内容	
1 年次	<u>4 月</u> * (10 月)	<u>指導教員の決定</u>	<u>・ 博士後期課程専攻長等会議により指導教員、副指導教員を決定する。</u>
		<u>研究テーマ決定、研究計画及び研究指導計画の作成</u>	<u>・ 学生は研究計画を作成する。</u> <u>・ 指導教員と学生が相談の上、研究テーマを決定し、研究指導計画書を作成する。</u>
		<u>研究倫理教育研修の実施</u>	<u>・ 学生は研究倫理教育研修を受講し、指導教員が確認を行う。</u>
	<u>4 月～</u> * (10 月～)	<u>授業の履修</u>	<u>・ 学生は授業科目を履修し、専門・総合的知識を獲得する。</u>
		<u>研究及び研究指導の実施</u>	<u>・ 学生は研究計画に基づき、研究を実施する。</u> <u>・ 指導教員は学生が実施している研究の進捗を随時確認し、実験・調査等の手法やデータ解析の指導等、研究の進捗状況に応じた指導を実施する。</u>
		<u>研究指導の頻度・方法</u>	<u>・ 指導教員は研究室ゼミ（週 1 回）、研究班別ミーティング（週 1 回）又は個別ディスカッション（月 1 回）を実施する。</u>
	<u>1 月～3 月</u> * (7 月～9 月)	<u>進捗状況の確認</u>	<u>・ 指導教員は学生が実施している研究の進捗状況を確認する。</u>
2 年次	<u>4 月</u> * (10 月)	<u>研究計画及び研究指導計画の作成</u>	<u>・ 学生は研究計画を作成する。</u> <u>・ 指導教員は研究指導計画書を作成する。</u>
		<u>研究倫理教育研修の実施</u>	<u>・ 未実施の学生は研究倫理教育研修を受講し、指導教員が確認を行う。</u>
	<u>4 月～</u> * (10 月～)	<u>授業の履修</u>	<u>・ 学生は授業科目を履修し、専門・総合的知識を獲得する。</u>
		<u>研究及び研究指導の実施</u>	<u>・ 学生は研究計画に基づき、研究を実施する。</u> <u>・ 学生の中間発表又は学会等での発表を通じて、指導教員は研究指導を実施する。</u> <u>・ 指導教員は学生が実施している研究の進捗を随時確認し、実験・調査等の手法やデータ解析の指導等、研究の進捗状況に応じた指導を実施する。</u> <u>・ 指導教員は学術論文投稿に向けて指導する。</u>
		<u>研究指導の頻度・方法</u>	<u>・ 指導教員は研究室ゼミ（週 1 回）、研究班別ミーティング（週 1 回）又は個別ディスカッション（月 1 回）を実施する。</u>
	<u>1 月～3 月</u> * (7 月～9 月)	<u>進捗状況の確認</u>	<u>・ 指導教員は学生が実施している研究の進捗状況を確認する。</u>
3 年次	<u>4 月</u> * (10 月)	<u>研究計画及び研究指導計画の作成</u>	<u>・ 学生は研究計画を作成する。</u> <u>・ 指導教員は研究指導計画書を作成する。</u>
		<u>研究倫理教育研修の実施</u>	<u>・ 未実施の学生は研究倫理教育研修を受講し、指導教員が確認を行う。</u>

	<u>4 月～</u> <u>* (10 月～)</u>	<u>授業の履修</u>	<u>・ 学生は授業科目を履修し、専門・総合的知識を獲得する。</u>
		<u>研究及び研究指導の実施</u>	<u>・ 学生は研究計画に基づき、研究を実施する。</u> <u>・ 指導教員は学生が実施している研究の進行を随時確認し、実験・調査等の手法やデータ解析の指導等、研究の進捗状況に応じた指導を実施する。</u>
		<u>研究指導の頻度・方法</u>	<u>・ 指導教員は研究室ゼミ（週 1 回）、研究班別ミーティング（週 1 回）又は個別ディスカッション（月 1 回）を実施する。</u>
	<u>7 月</u> <u>* (1 月)</u>	<u>授業の履修</u>	<u>・ 学生は授業科目を履修し、専門・総合的知識を獲得する。</u>
		<u>学位申請予定確認</u>	<u>・ 指導教員は学生の研究進捗状況及び査読付学術論文・学会発表等をもとに、学生と協議の上、学位申請予定を確認する。</u>
	<u>11 月</u> <u>* (5 月)</u>	<u>予備審査</u>	<u>・ 学生は博士論文を提出し、博士論文発表会に参加する。</u> <u>・ 論文審査委員は発表論文を精査し、学位論文受理の可否について審議する。</u>
	<u>12 月～2 月</u> <u>* (6 月～8 月)</u>	<u>学位審査</u>	<u>・ 学生は博士論文を提出し、博士論文発表会に参加する。</u> <u>・ 論文審査委員は博士論文審査及び最終試験を実施する。</u>
	<u>3 月</u> <u>* (9 月)</u>	<u>学位授与</u>	

*は 10 月入学者

室蘭工業大学大学院における研究指導の基本方針

令和元年 11 月 28 日 役員会決定

博士前期課程及び博士後期課程で定める教育目的を達成するため、以下に掲げる研究指導体制を整備し、各種の取り組みを行う。

1. 研究指導体制

(1) 複数教員による指導体制

複数教員（博士前期課程 2 名以上、博士後期課程 3 名以上）による指導体制とし、教育システム委員会及び博士後期課程専攻長等会議により、指導教員を決定する。

(2) 研究テーマ決定

指導教員が学生と面談を行い、取り組むべき特別研究のテーマ決定を行う。

(3) 授業・研究指導計画の明示

授業及び研究指導の方法及び内容並びに一年間の授業及び研究指導の計画をあらかじめ明示する。

2. 研究指導計画・進捗状況のチェック

(1) 博士前期課程における中間発表会の実施

博士前期課程においては、修士論文の発表のみならず、中間発表会も実施・公開し、その後各専攻コース教員による会議により議論を行うなど、研究の進捗状況を把握し、必要となる助言や指導を行う。

(2) 博士後期課程における研究指導報告制度の実施

学生が標準修業年限により学位を取得することができるよう研究指導報告制度を実施し、研究指導方針の明確化を図る。報告があった内容は、博士後期課程専攻長等会議に付議し、研究の進捗状況を確認する。

3. 成績評価基準等の明示

学修の成果及び学位論文に係る評価並びに修了の認定に当たっては、客観性及び厳格性を確保するため、学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに、当該基準にしたがって適切に行う。

4. 研究力・俯瞰力の育成

(1) 研究奨励費制度

学部生及び大学院学生について、学会の全国大会又は国際大会において発表を行った場合等については、別に定める研究奨励費制度により、研究奨励費を指導教員に配分する。

(2) 他大学等との連携教育による俯瞰力育成

他大学大学院と連携を行うことにより相互に大学院科目を提供し、遠隔授業システムを利用して双方の大学院学生の受講を可能とする。

また、スーパー連携大学コンソーシアムに加入し、コンソーシアム参加大学が提供する、多様な授業科目の受講を可能とする。

5. 研究者倫理教育と教育能力育成

(1) 研究者倫理教育

博士前期課程と博士後期課程の 1 年生を対象に、E ラーニングを活用した「研究倫理教育研修」を実施する。

(2) TA 研修会の実施

博士前期課程学生を対象に、「TA 研修会」を開催し、TA 業務の知識、教育者としての振る舞いや心構えを教授する。